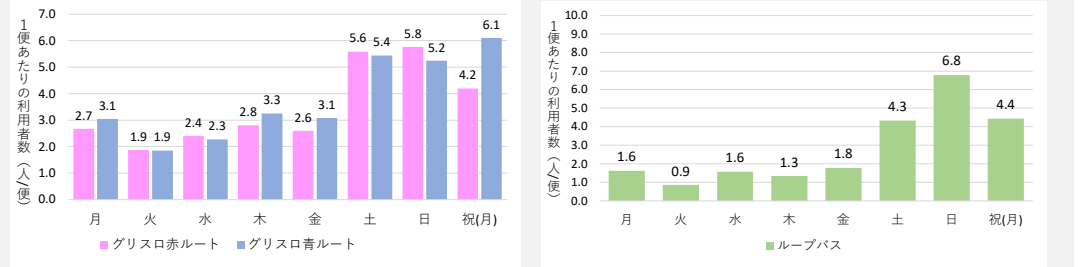


実証実験の結果概要

令和4年10月～11月に1期と2期に分けてグリーンスローモビリティ(赤ルート・青ルート・白壁ぐるっと号・観光モデルコース)及び周遊バス(打吹ループバス)の実証実験を行いました。

<1期> 1便あたりの利用者数

○曜日別の利用者数では、土日祝日の利用者は平日の2倍以上となっています。グリスロは土日祝はほぼ満車、ループバスは平日に比べて多いものの、最も多い時で7名程度です。



▲グリスロ 1 便あたりの利用者数

グリーンスローモビリティ
利用者数 計**2,238人**
(土日祝 赤ルート609人
青ルート595人)

▲ループバス 1 便あたりの利用者数

うつぶきループバス
利用者数 計**1,420人**
(土日祝 961人)

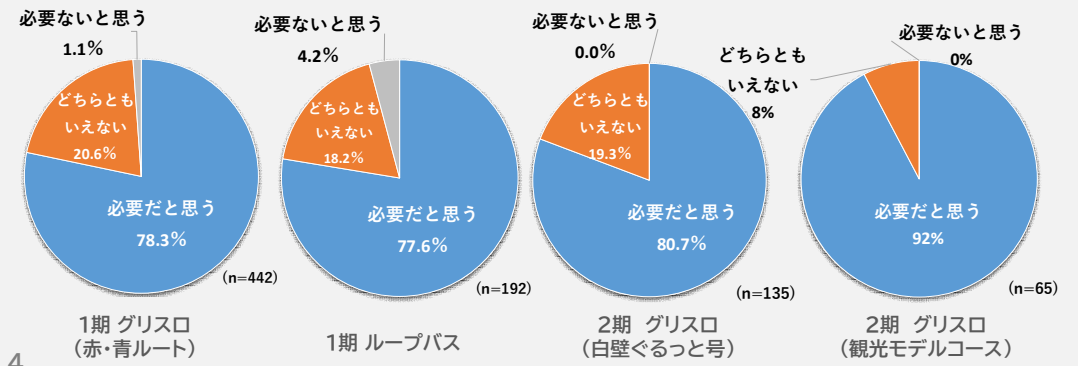
<2期> 1便あたりの利用者数

○第2期は計632名が利用し1便当たりの利用者数は3.5～4.4名/便です。



地域にとっての必要性

○利用者の約8割が地域にとって「必要だと思う」と回答しており、特に、観光モデルコースを必要と答えた利用者は9割を超えています。また「どちらともいえない・必要ないと思う」と回答された方は、観光案内の要望や土日は満車で乗車できなかった一方で平日は乗車が少なかったことに関する意見が見受けられました。



倉吉市周遊滞在型観光地モビリティ向上計画

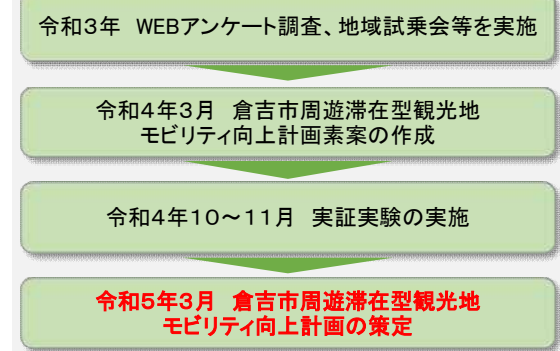
はじめに

計画策定の目的

・県立美術館～赤瓦・白壁土蔵群エリア～円形劇場・小川氏庭園周辺範囲を『周遊滞在エリア』と位置付け、令和7年春の県立美術館の開館の動きに合わせて、倉吉らしい周遊滞在型観光まちづくりを推進します。

計画策定の経緯

・本計画は令和3年にWEBアンケート調査や地域試乗会等を開催し、それらの結果を踏まえて素案を作成しました。
・令和4年度には計画に基づき実証実験を実施しました。本計画は、その実証実験の結果を踏まえて素案を成案化したものです。



対象地域

・以下のエリアを本計画の対象エリアとします。



周遊滞在エリア
形成のための
課題解決の方向性

心ときめく出会いを生む
モビリティ向上を基軸とした
周遊滞在型観光地づくり

モビリティ向上の方向性と施策

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

計画書 p.19-26

2 観光客が利用したくなる周遊モビリティをつくる【魅力づくり】

計画書 p.27-30

3 地域関係者の連携により、持続性を備え、親しまれる周遊モビリティをつくる【地域連携強化】

計画書 p.31

なお、下記に挙げる項目については、今後、優先順位をつけながら個別具体的に事業化を検討することとします。

1 周遊滞在エリア全体での観光周遊を支援する移動環境をつくる【交通体系づくり】

1.1) 安全・安心・快適にゆっくり周遊滞在できるエリア形成

- ①観光散策ルート等の歩行空間整備
- ②観光駐車場・バス停～観光拠点間の歩行空間整備
- ③プロムナード公園の再整備
- ④屋外ベンチの追加整備
- ⑤公衆用Wi-Fiの整備
- ⑥エリア20等の導入

※エリア20とは・・・エリア内を安全にゆっくりと歩いて回ることができるよう、エリア内への自動車の不必要な進入を抑制するとともに、できるだけ速度を控えていただく(最高速度20キロのエリアとするなど)ようにすることを示す

1.3) ループバスの導入検討

①ループバスの導入検討

【ループバス導入の方向性】

・当面、**観光客を中心に**、来訪者の多い**土日祝の運行**の検討を進める。また、使用する**車両の大きさも検討**する。



1.5) パーソナルモビリティの拡充

- ①レンタサイクルの拡充
- ②バイク・自転車の駐輪場の拡充
- ③自転車周遊モデルコースの作成
- ④多様なモビリティの研究



1.2) 観光駐車場等の適正な運用

- ①経路案内看板の再整備
- ②WEBによる駐車場案内充実
- ③各駐車場での名称表示
- ④駐車場内での観光案内看板の見直し
- ⑤駐車スペースの表示等
- ⑥駐車場の機能の充実
- ⑦琴櫻・赤瓦観光駐車場の廃止（利用転換）
- ⑧バス回転広場の運用見直し

1.4) グリーンスローモビリティの導入

- ①サービス内容の詳細設定
- ②車両購入・車庫等の整備
- ③乗降場所整備・ルート明示
- ④運行ルートの除雪計画の策定・実施

【グリーンスローモビリティ導入の方向性】

・休日**は観光客・地域住民向けの定時定路線運行**とする。
→平日**は観光客向けにガイド付き観光ツアーや地域住民向けのおでかけツアー**などを中心とした**予約制運行**とする。



2 観光客が利用したくなる周遊モビリティをつくる【魅力づくり】

2.1) 観光モデルコース作成

- ①観光案内マップの作成
- ②観光モデルコース（グリスロ観光ツアー）の開発
- ③グリーンスローモビリティの駐停車スペースの確保
- ④路上の案内表示等の整備

2.2) 利用環境・情報提供の充実

- ①モビリティマップの作成
- ②乗降場所の案内表示
- ③ルート・ダイヤの案内表示
- ④デジタルサイネージの設置
- ⑤WEBによるモビリティ案内の充実

2.3) 付加価値の付与

①観光に特化したグリーンスローモビリティの運用

<具体的な取り組み内容>

- ①-1 ガイド付きグリスロ観光ツアー開発
- ①-2 観光ガイドの確保・育成
- ①-3 自動音声ガイド等の設置

②モビリティと観光が一体になった観光商品の開発・導入

③全モビリティ共通利用券等の開発



利用者の方からは、
観光ガイドの説明が
特に好評

◀実証実験での観光
モデルコースの様子

旅マエの宿泊施設から旅ナカの周遊バスや観光施設等の予約・決済を一括でできるサービス



▲観光MaaSの取組事例（tabiwa by WESTER）

2.4) ネーミングや車両ラッピングの工夫

①モビリティのネーミング・
車両ラッピング



▲地域特産の瀬戸内レモンのカラーを施した車両
（尾道市の例）



▲地元、学生も参画する審査会により決定した
モビリティの愛称（大田市の例）

3 地域関係者の連携により、持続性を備え、親しまれる周遊モビリティをつくる【地域連携強化】

3.1) 新たなモビリティの運行体制・事業スキームづくり

①事業スキームの検討・調整

3.2) 新たなモビリティの地域住民外出支援ツールとしての活用検討

- ①サービス内容の詳細設定
- ②事業スキームの検討・調整



▲実証実験での地域向け運行の様子